

令和2年度 学校評価(自己評価)にむけた教職員アンケートの結果と改善策

昭和町立押原小学校

学校教育目標	
仲間とともにたくましく 明日を生き抜く力をもつ子ども	
<small>自分の考えをもち 自ら学ぶ子ども(知) …かしこい子 豊かな心で 仲間を思いやる子ども(徳) …やさしい子 体をきたえ 最後までやり抜く子ども(体) …たくましい子</small>	
重点目標	
◎学校・家庭・地域との参画・協働・熟議・互恵によるコミュニティ・スクールの創造と実践 ◎次世代を担い、生きる力を育む外国語活動・外国語科、キャリア教育等の特色と魅力ある教育の実践 ◎地域人材や地域素材、ソーシャルキャピタルを生かした地域に根ざした教育の推進 ◎学校の施設設備や教育環境を生かした多様な学習内容及び指導形態の質の高い授業の実践 ◎学級力と子どもの家庭学習力の向上に向けた取り組みの工夫と実践	
今年度の重点目標	
(1) あいさつや返事などの基本的な生活及び行動習慣の定着と徹底 (2) 話の聴き方、話し方、ノートのとり方など基本的な学習及び行動習慣の定着と徹底 (3) 安全で元気に楽しく仲よく遊び、心身ともに健康な体づくり (4) 保護者や地域の人々と参画・協働・熟議・互恵を基調とした開かれた信頼される学校の創造	

1 評価の方法

学校職員による評価である。回答者が、「そう思う」を4点、「ややそう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点として各項目について評価し、平均を算出している。評価の回数は2回で、時期は7月(前期)と12月(後期)である。4点満点中、3.0点未満の項を課題とし、次年度にむけた資料とする。なお、平均の算出方法については、すべての場合において算出する時は個々の値で計算し、表示する時に四捨五入して表示している。

今年度の重点目標等	評価事項	前期 評価	後期 評価	改善策
(1) あいさつや返事などの基本的な生活及び行動習慣の定着と徹底 3.1→3.2	① あいさつや返事について継続的に指導が行われ、その必要性が児童に理解され、実践されているか。	3.0	3.3	児童主体となる取り組みになるよう児童会活動及び、学年、学級での取り組みの強化。
	② 発達段階に応じた基本的な生活習慣の育成が、教育課程の位置づけの下に実施され、効果を挙げているか。	3.3	3.3	家庭との共通理解、連携の強化。
	③ 登下校時、PTA旗振り当番や地域の方々にあいさつができるなど、児童と地域の交流は深まっているか。	3.0	2.8	家庭や地域との目標の共有化。協働的な活動。

後期は、前期に比べると①～③の評価数値の平均値が上がった。しかし、登校時のあいさつについては、評価が下がった。感染症予防のため登校中も話をしないことを指導したため、うつむき加減に登校する部分があったことなども影響していると考えられる。今後、マスクをしていても相手に伝わるあいさつについての指導が必要である。児童会を中心に、児童が主体的に自らの生活を見直し向上させていこうと活動したことで、校内でのあいさつ、履物をそろえるなどの取組は進んだ。今後も継続的な指導を行い、定着・徹底に結び付けたい。

(2) 話の聴き方、話し方、ノートのとおり方など基本的学習及び行動習慣の定着と徹底 3.2→3.6	①	話の内容を正確に聴き取る指導が、計画的・継続的に行われているか。	3.3	3.5	発達段階に応じた目標の共有化や可視化。
	②	相手、目的、場面を意識し、わかりやすい話し方を習得させる指導が、計画的・継続的に行われているか。	3.2	3.4	授業等での継続的・系統的な話し方の可視化とその指導。
	③	思考力・判断力・表現力等を高めるためのノートのとおり方の指導が、計画的・継続的に行われているか。	3.1	3.7	教師の授業改善の一つとして、子どもが自分の考えを記述・表現する場の設定。

後期は、前期と比べると評価数値が上がっている。校内研究を通してノート指導や板書について共通理解を図ったことを通じて、授業改善への取組が進んだ。また、それによって児童の書く力が伸びたことが実感される場面が増えたとの声もある。今後、校内研究の成果や課題もふまえて、話の内容を正しく聞き取ったり、相手・目的・場面を意識したりするための系統的な学習指導の内容を具体的に探り実践していけるとよい。

(3) 安全で元気に楽しく仲よく遊び、心身ともに健康な体づくり 2.9→3.6	①	学校施設・設備を活用した体力づくりが、効果的に実施されているか。	2.7	3.0	押原の杜、芝生、遊具、教具、遊び等の安全な活用。
	②	体育や休み時間、体育的行事の活動が教育課程に適切に位置づけられ、児童の体力の向上に効果を上げているか。	2.8	3.2	コロナウイルス感染症予防対策をする中で体育授業の充実体力づくりとして短縄での体力作り。
	③	道徳や特別活動等の指導を通して、学級・学年・全校の望ましい仲間作りが促され、児童の心の健康が保持増進されているか。	3.2	3.4	仲間作りを意識した学級、学校での取り組み強化。

後期は、前期に比べると評価数値が上がっている。2学期になり、児童の体力向上をめざした運動を授業に取り入れたり、なわとびの取組を適宜実行してきたりしたことへの評価と捉えられる。2学期末には「アクティブ・チャイルド・プログラム」の事業を活用し、1～3年生に「投げる力」の指導機会を設けることができた。また、運動会種目を進んで練習する姿や休み時間に校庭でなわとびの練習をしている姿など、児童が自主的に運動を行う場面が見られた。来年も児童の自主的な活動を期待する一方、町の事業等も有効に活用しながら、心身ともに健康な体づくりにつなげたい。

(4) 保護者や地域の人々と参画・協働・熟議・互恵を基調とした開かれた信頼される学校の創造 3.2→3.6	①	学校・学年便り、ホームページ、PTA新聞等は、家庭・地域への情報源として機能し、三者のよりよい信頼関係づくりに役立っているか。	3.6	3.7	HP、ブログ、ねっとわーく押原等の充実。
	②	授業参観や道徳公開、家庭訪問、個別懇談、地区懇談会、学年PTA行事等は、三者の双方向の意見交換の機会として機能しているか。	2.7	3.5	感染症対策を行いながら、学校・家庭・地域が連携を行える場機会の設定。
	③	家庭や地域住民からの意見や要望に対して、適切に対応すると共に、必要に応じてそれらを教育活動や学校運営の改善に生かすよう努めているか。	3.4	3.7	迅速かつ適切な対応。

後期は、前期と比べ評価が高くなった。2学期は、地区別授業参観や道徳授業公開など徐々に実施できるようになった。また学校通信「ねっとわーく押原」、ブログ、ホームページなどの学校からの情報発信も頻繁に行われた。そうしたことによる成果、保護者の反応等を見据えた上での評価結果であると捉えられる。今後もコロナ禍に伴う諸状況は続くことが予想されるが、その中であっても、保護者や地域の人々の参画・協働・熟議・互恵を基調とした開かれた学校づくりに努めたい。

(5) 外国語活動、コミュニティ・スクール等の特色ある教育の推進 3.1→3.4	①	各教科等の学習を通して、これからの日々の生活や未来を夢や希望あるものにしていくとする意欲や態度を育てているか。	3.3	3.5	有意義な教育活動の創造とキャリア教育の推進。
	②	体験的な活動を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、外国語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を育てているか。	3.3	3.5	外国語活動、外国語科の推進。
	③	地域の「人・もの・こと」とつながり、学び合う児童の姿をめざし、具体的な教育活動を実践しているか。	2.8	3.1	地域の教育力を活かした教育活動の推進。

後期は前期に比べると評価が上がった。コミュニティ・スクール等の特色ある教育については、特に外部人材による学習活動や、地域に出向いての活動などにおいて、例年通りの活動はできない状況があった。ただし、その中においても、活動内容を精査・工夫しながら、米作り(5年生)やハーブに関する学習(4年生)、全校CSクリーン活動等、地域からの支援による学習活動を展開することができた。今後も、感染症対策を取りながら、できることは何かを模索しながら、それぞれの学習活動の狙いの実現に努めていくことが重要と考えられる。

(6) 学校の施設設備や教育環境を生かした多様な学習と質の高い授業の実践 3.2→3.4	①	エコ施設や、押杜・ビオトープ・芝生校庭等の自然的環境を有効に活用した教育実践がなされているか。	3.1	3.3	エコ施設や環境を活用した教育活動の推進。
	②	iPad・パソコン・電子黒板等の電子機器を活用した、効果的な授業が模索され実践されているか。	3.2	3.5	情報機器の活用と情報活用教育の推進。
	③	TTや少人数指導など、個に対応したきめ細かな指導が実践されているか。	3.4	3.7	人的環境の充実。校内支援会議の推進。

後期は、前期に比べると評価が上がっている。学校の施設設備や教育環境については、「自然あふれる本校では、季節の移ろいを児童が実感し、学習することができている」「教室内で密にならないように机の間隔を広げることができている」「押原の杜や芝生など本校の施設設備を有効に活用することができている」などの声が寄せられている。またICT教育利用については、ICT環境を活用し、児童のより深い理解へとつながっていることへの声がある一方、iPadや電子黒板等の操作性の向上を求める声もある。今後GIGAスクール構想による児童一人一台PC、教師用PCが入る予定である。研修や実践を積み、授業で活用していく必要がある。全教職員(コロナ対応増員含む)による支援体制は、多くの場面で良い結果が得られている。今後も組織体制の充実や、その組織体制の効果的運用に努めたい。

(7) めざす教師像 3.5→3.5	①	本校職員は、教員かつ公務員としての職責を果たすために、研修を積み、創意工夫をしているか。	3.4	3.6	自発的な研修、研究の推進。
	②	本校職員は、職員会議や校内委員会、校内研究等へ積極的に参画しているか。	3.5	3.5	効率的、効果的な教育活動の共通理解。
	③	本校職員は、円滑な学校運営の実現のために、協働して職務を遂行しているか。	3.5	3.5	協働した職員間の連携充実。
	④	本校職員は、保護者や地域住民等と望ましい人間関係を築くことに努めているか。	3.6	3.5	保護者や地域との連携・協力推進。

後期は前期と同等の評価であった。教育公務員としての自覚をもち、児童のために創意工夫をし、職務を遂行していること、また、円滑な学校運営のため、全職員が協働し、安心安全で信頼される学校づくりに励んでいることなどについて、肯定的な評価がなされている。今年度より全世帯の保護者を対象にアンケートを実施している。保護者や地域の方々との望ましい人間関係作りに向けて、このアンケートを通じて広く意見を聞く中で、学校経営・運営の改善に努めていきたい。